



12 岡本太郎 (1911-1996)  
Taro OKAMOTO  
《樹人》1971年  
プラスチック 高さ360.0cm  
The Vegetal Man, Plastic

日本万国博覧会のシンボルになった「太陽の塔」で有名な芸術家です。見る人の視線を動かし、作品の周りを自由に回って見られる作品を目指していました。樹木の精霊を造形したかのような作品でつぼみや葉っぱ、人間のように様々に変化する形が魅力的です。

1 11 ヘンリー・ムーア (1898-1986)  
Henry MOORE  
《四つに分かれた横たわる人体》  
1972-1973年  
ブロンズ 高さ213.0cm  
Four Pieces reclining Figure, Bronze



イギリスを代表する彫刻家で大理石やブロンズの抽象彫刻が有名です。一貫して横たわる像を作り続けましたが、空洞を持たせるのが特徴です。美術館の開館当初(1978年)からこの場所に設置されています。



2 エミール=アントワヌ・ブルデル (1861-1929)  
Emile-Antoine BOURDELLE  
《ケンタウロス》1914年  
ブロンズ 高さ288.0cm  
The Dying Centaur, Bronze

近代彫刻の三巨匠の一人でロダンの助手を務めました。ケンタウロスはギリシャ神話に登場する半人半馬の怪物で、乱暴ものであったため亡ぼされています。その瀕死の状態が表現されています。

11 アリスティード・マイヨール (1861-1944)  
Aristide MAILLOL  
《裸のフローラ》1911年  
ブロンズ 高さ167.0cm  
Nude Flora, Bronze



近代彫刻の三巨匠の一人で、画家でしたが視力低下により彫刻に専念するようになります。フローラは古代ローマの神話における花と春の女神です。古代から果物や花を持って歩く姿や花を持つ娘の姿で表現されてきました。



3 エミール=アントワヌ・ブルデル (1861-1929)  
Emile-Antoine BOURDELLE  
《叙事詩》1917年  
ブロンズ 高さ270.0cm  
The Epic, Bronze

叙事詩とは戦争や事件をありのままに書いた詩の事です。ポーランドの自由と独立を目指して生涯をささげた詩人ミスキエヴィッチの記念碑の一部分です。



8 佐藤忠良 (1912-2011)  
Churyo SATO  
《カモシカと少年》1990年  
ブロンズ 高さ158.0cm  
The Antelope and the boy, Bronze

絵本「おおきなかぶ」の挿絵も手がけた作家で、パリのロダン美術館で日本人初の個展を開催しました。山梨県が芸術の森公園のシンボルを制作するにあたり依頼したものです。カモシカは山梨県の県獣です。

7 ヴェナンツォ・クロチェッティ (1913-2003)  
Venanzo CROCCETTI  
《踊り子(大)》1972年  
ブロンズ 高さ194.0cm  
The Dancer, Bronze



イタリアの彫刻家です。彼の作品にはきりこんだような瘦身の体躯を通して奥行きのあるドラマチックな姿勢と華麗なダイナミズムが表現されています。「踊り子」は彼が最も得意としたモチーフで作風が最も顕著に表れている代表作です。

4 舟越保武 (1912-2002)  
Yasutake FUNAKOSHI  
《花を持つ少女》1966年  
ブロンズ 高さ160.0cm  
Girl with a Flower, Bronze

17歳の時に「ロダンの言葉」という本を読み感動し彫刻家を目指します。晩年は病気で右半身が不自由になりますが、亡くなる直前まで左手で創作を続けました。あどけなさの残る面影と姿態ですが内省的な雰囲気をもたえているのが特徴的です。



5 吾妻兼治郎 (1926-)  
Kenjiro AZUMA  
《YU-5》1986年  
ブロンズ 高さ296.0cm  
YU-5, Bronze



イタリアを中心に活躍し、日本人として初めて歴史あるパチカン美術館へ収蔵・陳列された彫刻家です。抽象彫刻ですが菌糸類やシダ類のキノコや植物をイメージしているともいわれています。

6 佐藤正明 (1941-)  
Masaaki SATO  
《ザ・ビッグアップル NO.45》2008年  
ステンレス・スチール 高さ360.0cm  
The Big Apple NO.45, Stainless Steel



山梨県甲府市出身の作家です。1971年30歳でニューヨークに活動の場を移し、沢山の「穴」を描くスタイルが注目を集めました。この作品は穴から情報が受発信されているイメージで作られました。日本や山梨の未来のシンボルになって欲しいという作家の思いがこめられています。

13 フェルナンド・ボテロ (1932-)  
Fernando BOTERO  
《リトル・バード》1988年  
ブロンズ 高さ130.0cm  
A Little Bird, Bronze



南米コロンビア出身の画家であり彫刻家です。対象に大胆なデフォルメを施し、極限まで丸くふくよかに表現する事で作品に生命力や官能性を与えているのが特徴的です。

9 オーギュスト・ロダン (1840-1917)  
Auguste RODIN  
《クロード・ロラン》1880-92年  
ブロンズ 高さ212.0cm  
Claude Lorrain, Bronze



ロダンは近代彫刻の父といわれ、弟子のブルデルやマイヨールと合わせて近代彫刻の三巨匠の一人です。モデルは17世紀のフランスの風景画の巨匠で、当館でも作品を収蔵しています。クロード・ロランの出身地で記念像が計画され多くの公募の中からロダンのプランが採用されました。

14 アンリ・シャピュ (1833-1891)  
Henri-Michel Antoine CHAPU  
《ミレーとルソーの記念碑》1884年  
ブロンズ 高さ88.0cm  
Monument of Millet and Rousseau, Bronze



フランスの彫刻家であり版画家です。フォンテーヌブローの森の開発計画に反対し、自然保護運動をしたミレーとルソーの功績を称え作られたものです。フォンテーヌブローの森に設置されているものと同一ブロンズ型から鑄造されました。

10 オシップ・ザッキン (1890-1967)  
Ossip ZADKINE  
《ゴッホ記念像》1956年  
ブロンズ 高さ269.0cm  
Monument of Van Gogh, Bronze



南仏のアレル地方に住んでいた頃のゴッホの姿だといわれ、長く伸びた手足と衣服に深く刻まれたしわは古木のような印象を与えます。新たな芸術が古木のように大地にしっかりと根付く事を願っているといわれています。

